



予測困難な時代を生き抜く力を育む

自分で課題を見つけ、話し合いの中で、皆で答えを考える力は、生涯にわたって大切な力です。子ども達が大人になるころ、世の中がどうなっているかは想像が付きません。そんな予測困難な時代を生き抜き、目標や夢を持ち、その実現に向けて力強く進んでいける人を育てるには、学校と家庭が協力し合い教育に取り組んでいくことが大切です。

教育基本法が掲げる教育の目的に「人格の完成を目指し」とあります。人を大切にすることや責任感、自主性などを育んでいくことが教育の目指すところです。家庭でも宿題や自主勉強をすることは、遊びたいなどの気持ちから自分を律する心や、遊ぶために宿題を計画的に済ませる力を育むことに意義があります。早寝早起きや正しい食習慣などは、人生の長きにわたって必要な大切な力になります。

単に勉強することや家庭学習をすることはなく、それらの行動を取り巻くさまざまな要素が、教育の目的を果たす上で大切ということです。市では、教育振興大綱でも子ども達に育みたい力として「ふるさと舞鶴を愛する」「夢の実現に向け高い志を持つ」「コミュニケーション能力を有する」「人を思いやり親や周りの人に感謝する」を挙げています。どんな時代でも、どんな仕事に就いても役に立つ力を付けるべく、共に子ども達を育てていきたいと思います。

福井県派遣教員インタビュー

学校・家庭・地域のなかで育まれるチカラ



家庭で取り組む学習には主に各教科の宿題と自主学習ノートがあります。単純に勉強の量や時間だけでなく、取り組む姿勢ややりきる力を育むことが大切です。



滝本幸広先生
平成29年度、福井県勝山市立中学校派遣

地域の中で育つ子ども達(滝本先生)
宿題や自主学習に対し「必ずやって出さなければいけない」という姿勢を持っていて、できない生徒も昼休みや放課後などに教員がサポートして、やりきる力、困難に向き合う力を育みます。加えて、校内実力テストに向け、自主学習ノートにも取り組むなど、家庭学習の習慣が身に付いています。福井県は昔から宿題が多く、親世代に「宿題をきちんとやりきるべき」という意識が根付いており、家庭でも子どもの課題を



▲左義長祭り

やりきる力を育てる風土がありました。また、ふるさと教育に力を入れていて、地元のことを好きな生徒が多いと感じました。地域のスポーツチーム・団体で活動する生徒もおり、学校から市の行事やスポーツ大会への参加も呼び掛けているため、地域と触れ合う機会は多くありました。

また、地域最大の祭「左義長祭り」があり、多くの生徒がこの祭りの太鼓に参加しています。稽古は、地域の色々な人との面識や関わりができるきっかけにもなります。地域に多く関わること、地元を好きになる気持ちが育まれていると感じました。

中学は受験などを意識する時期ですが、勉強を見るだけでなく、ニュースや身の回りのことなどを家族で話し合い、考える時間なども作ってもらえたらと思います。

学ぶことの大切さ(木下先生)

授業はもちろん家庭学習にも自分の力を高めることを意識して取り組んでいる生徒が多いと感じました。学校で上手に時間を活用して、友達と教え合ったり宿題に取り組んだり、授業で分からなかったことを聞いたり、楽しみながら計画的に学び姿がよく見られました。また、勉強が苦手な生徒には、教員



▲給食配膳中の様子(福井市)

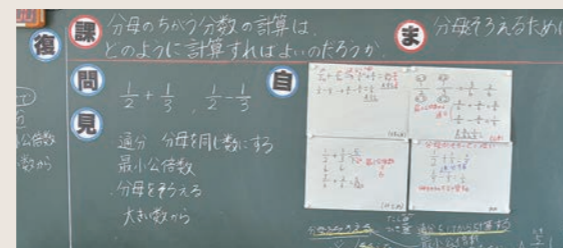
が一人ひとりに声をかけ、宿題や学習の相談にのるなど、丁寧なサポートを行っていました。

昭和26年から県独自で学力調査を実施するなど、昔から教育に力を入れてきた福井県では「学ぶことは大切」という意識が感じられました。学力が注目される福井県ですが、保護者の皆さんは「勉強が一番大事」ではなく「学校では勉強以外のこともしっかりと学んでほしい」という願いを持っていて、社会で必要とされるマナーやモラルについて、家庭と学校が協力して育んでいる印象があります。



木下浩子先生
平成28年度、福井県福井市立中学校派遣

主体的・対話的で深い学び
市では、派遣教員による成果も含め新たな授業のあり方を示した「舞フーニング」を作成し、教員の研修に取り組んでいます。「教員が板書し、児童生徒が写し、問題を解く」ではなく、自ら疑問を持ち、自分の考えを持って課題に取り組む。考え方を交流して深めていく「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しています。



▲授業を見学する教員(上)課題やまとめなど学びの過程が分かる秋田県方式の黒板の使い方(下)

家庭学習のポイント

全国学力テストでは、生活に関する質問なども実施しています。京都府によると、中でも基本的な生活習慣の確立(毎日朝食を食べる)や家庭での学習習慣の定着(学校の授業以外の平日の学習時間)や家族とのコミュニケーション(家で学校での出来事について話す)の項目で、好ましい回答をしている子ども

達は学力が高い傾向にあることが分かりました。これらは「仕事にかかると日々の暮らしにかかる」地域や社会の人と関わる「力」につながると思います。家庭での子どもへの接し方ひとつで、伸ばせる力があります。次のポイントを参考に、家庭での過ごし方や子どもとの関わり方について考えてみてください。

基本的な生活習慣の確立	家庭での学習習慣の定着	家庭でのコミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ◆「早寝、早起き、朝ご飯」を実行 ◆携帯電話やスマホの使い方、使用時間のルールを作る ◆テレビやゲームの時間を決める 	<ul style="list-style-type: none"> ◆毎日決めた時間、家庭学習に取り組む ◆宿題以外にも計画的に家庭学習に取り組む ◆学習に集中できる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校での出来事について話す ◆家の人や授業参観や運動会などの行事に参加する ◆地域や社会で起こっていることについて話す